

いしくさ

vol. 149

輪之内町の乙姫さん



平成22年にお色直しをした乙姫像

輪之内町海松新田に、巨大な女性像「自称・世界一背の高い乙姫さん」が立っている。誰が、何のためにつくったのだろうか。

輪 之内町の南西部、海松新田と海津市との境にある大樽川堤防付近の池に、巨大な女性像が立っている。ピルの高さなら、おおよそ3階から4階くらいの10m弱。頭や背中には、龍が絡みついていて。これはいったい、誰なのか。看板には「乙姫さん輪之内町」とある。池を隔てた向こう側には、確かに亀に乗った浦島太郎らしき像が、乙姫さんと見つけ合っている。その後には、これも浦島太郎の2倍はあり、そんな巨大な鶴。誰もが知っている、あの有名な話なのだろうが、竜宮城は海の中にあるはず。海のない岐阜県の輪之内町に乙姫さんとは、どういうことなのだろう。

「皆 さん、公園、公園と言われるので、今は乙姫公園ということになっていますが、もともとは子どもたちの遊び場として、祖父の牧野柳平が私有地につくったものです」。

公園と道路を挟んだ向かい側にある日八工業株式会社の取締役、牧野佳子さん82歳はいう。故柳平氏の孫嫁で、牧野家に嫁いだ昭和37年は、ちょうど乙姫像に取り掛かっていた頃だった。

柳平氏は明治18年生まれで、「郷土の輝く先人（下巻）」に「終生を地方

自治に貢献し率先水防に専念した」と紹介されているほどの人物。家業の土木業を発展させて日八工業を起こし、土地計画や河川の修復に力を注いで、昭和初期には西濃第一の業者、日本連合土木建築組合岐阜支部の理事にもなった。若い人たちからは「土木の神様」と呼ばれていたという。町村合併では調停の労をとり、町議会議員や議長なども務め、保育園の建設にも尽力した。地方自治功労者として勲章や褒章も受章している。92歳で死去。乙姫さんをつくり始めた頃は、80歳近くだった。



故柳平氏の思い出を語る牧野佳子さん